



JA全農さいたま主催 平成20年度 埼玉県産米交流会「体験稲刈り」報告

秋晴れの9月27日、JA全農さいたま「彩の米センター」にて、生協組合員等27家族112人(さいたまコープ、ドゥコープ)の参加で開催されました。

開会式では、主催者を代表してJA全農さいたま吉竹副本部長から「全農さいたま県本部は、農畜産物の生産者団体で、埼玉で生産される農畜産物を消費者の皆様とにかく安心しておいしく召し上がっていただけるかを考え仕事をしています。交流会は、昨年からの田植え・夏の中間観察会・稲刈りという流れにし、埼玉のお米や農業の大切さを知っていただくために開催しています」とあいさつがありました。

続いて、埼玉県農林部米づくり改革支援室からのあいさつ、来賓の紹介が行われました。引き続き、新鮮・安全・安心をモットーに生産している埼玉県産米の紹介や注意事項等について案内がありました。

第1部：体験稲刈り

はじめに、危険のないよう鎌の使い方の説明をうけ、田んぼに作った島に2家族ずつが分担して稲刈りを開始しました。徐々に手つきも慣れ、30分程で刈り取ることができました。また、コンバインを使用した稲刈りの様子を見学することもできました。子ども達は、刈り取られた田んぼに現れたカエル、バッタを嬉しそうに捕まえていました。クイズラリーも行われ、お米のミニ知識を勉強できたうえに、回答者には県産ナスが1袋プレゼントされました。



第2部：試食やバケツ稲栽培の体験発表

県産米のコシヒカリのおにぎりやキュウリの漬物、そして県産野菜がたくさん入った「すいとん」の試食を行いました。お腹がいっぱいになった後、6人の子どもたちから5月にプレゼントされたバケツ稲の栽培の体験発表がありました。続いて、バケツ稲の脱穀方法や籾取りの説明があり、子どもたちは真剣に聞いていました。

閉会式では、JA全農さいたまの金子副本部長から「今ほど、食の安全・安心が強く叫ばれている時はありません。JAとしては、引き続き日本の食を支えるために安全・安心を提供することを使命としていきます。国産の農畜産物の応援をお願いします」とあいさつがあり終了しました。